



ふたたびコロナ禍の春です。

3密回避、自粛の生活も1年以上となって、いつになったらみんなで集まれるのかなあ…と考える毎日です。

それでも私たち川口ぞうスタッフは、アナログなおつむを切り替え、こあ編集会議、スタッフ会議を月に数回、オンラインを駆使、ならぬ苦使しながら行なって、この「こあ」を作りお届けすることで、なんとか皆さんと繋がる事ができています。

誰もが重いストレスをまとう日々の中、国の内外には、さまざまな問題が山積みですが、目を背けるわけにはいきません。

そんな中で、ひとつ良いこともありました。長年の悲願である30人学級の実現に一步近づく、35人学級法案が成立しました。たとえコロナ禍が後押しした形であっても、子どもたちにゆきとどいた教育を求める、32年間の地道な全国署名活動（累計4億6千万筆）が実を結んだと言ってもいいのではないのでしょうか。

どんな時代にも、春になれば花はとりどりに惜しげもなく咲き競い、木々は枯れ枝から萌えるように芽吹く…その、目に沁みるような輝きが、生命の強靭さを信じさせてくれます。桜が散ったと思えば、ツツジ、ハナミズキ、美しい新緑の季節です。さあ、自然の気を取り込み免疫力を高めて、明日へと向かいましょう！

さて、今回ご登場いただくのは、コンサートの成功を裏でしっかり支える頼れるプロ。舞台監督の井関景太さんです。

川口ぞうれっしゃと出会う

舞台監督の井関です。

ぞうれっしゃの公演が終わった時、いつも、感動を味わっています。

「素敵な話だな！」と。



初めて、お仕事を頂いた時は、恥ずかしくも、ぞうれっしゃの話をまったく存じませんでした。2年に1回の公演なので、次は考えずに、「機会があれば」と思っていたのですが、いつのまにか、10年以上のお付き合いとなりました。

その後、名古屋に行く機会には、東山動物園にもうかがったりして、意外とファンになっています。

作品全体のメッセージが素敵であることは勿論ですが、毎回、公募で集まる方々の思いを乗せて、この川口ぞうれっしゃは、一回一回、新たに出発しているんだな、と、そんな風に勝手に解釈しながら仕事を楽しくしています。



皆さん一般の方ですが、プロには出せない、なんとも言えない味があって、そして面白い。演じるひとの人柄も、反映して作品創りに影響を与えます。総合芸術ですね。ぞうの皆さんの人柄が、人を繋げる力になっているのかな、とも感じています。

川口ぞうれっしゃとの出会いに、感謝しています。ありがとうございます。

昨今このような事態となり、2020年のコンサートが延期となったことは、とても残念でした。我々の業界も、今は少し戻ってきましたが、昨年は、深い闇を誰もが経験し、この先もまだ見えません。ぞうれっしゃが次に発車する時に、僕らも、乗り遅れないように頑張りたいと思います。